

## 令和7年第10回　日高市教育委員会会議録

開催の日時	令和7年10月31日（金曜日） 午後1時40分から午後4時05分まで
会議開催の場所	市役所501会議室
会議の公開又は非公開の別	公開。ただし人事案件については非公開。
非公開理由	個人に関する情報が含まれるため。
出席委員の氏名	島津芳久（教育長）・山川治美・島村由起男・馬場優子・谷本和歌子
欠席委員の氏名	なし
説明員の職氏名	教育部長 森田敏夫・教育部参事 志村憲一・教育総務課長 中條智則・学校教育課長 下ノ坊圭・学校教育課副参事 澤田秀一・生涯学習課長 吉野修・生涯学習課副参事 松本尚也・高麗小中学校校長 利根川典正・高麗公民館館長 小林克己
出席した事務局職員の職氏名	教育総務課主幹 清水寿
傍聴者数	1名
会議資料の名称	会議次第、教育長報告、議案第32号

### 議題及び決定事項等

議案第32号　日高市いじめ問題専門委員会委員の委嘱について

【原案どおり可決】

### 会議の経過

1) 前回会議録の承認事項　出席委員異議なく承認

2) 教育長報告の要旨

○教育委員会部課長会議、校長会議における教育長指示・伝達内容について報告した。

○その他、各部課長から、実施した事業等の結果と今後の予定を報告した。

3) 教育長報告についての質疑及び答弁の要旨

【教育長報告（高麗小中学校、高麗公民館）関連】

（委員）高麗小中学校は各学年1クラス編成か。

（高麗小中学校校長）9年生は2クラスであるが、その他の学年は1クラス編成である。

（委員）校舎玄関（職員用）の上部に大きな看板を設置しているが、重量があると落下による事故が心配である。

（高麗小中学校校長）重量は大人一人が片手で持ち上げられる程度であり、設置につ

いては、地域学校協働本部で知識のある方に補強してもらい設置した。

(委員) 横手地区のタクシーによる通学について、利用している子どもの人数は。

(高麗小中学校校長) 今年度は 12 名である。1台当たり 4 名乗車で、計 3 台のタクシーを利用している。

(委員) 特別支援学級の交流学習について、再度伺いたい。

(高麗小中学校校長) 前期課程と後期課程の特別支援学級が、一緒に活動して交流を図るものである。

(委員) 後期課程（中学校）の教員による乗り入れ授業にある「学級経営：6 年」について、再度伺いたい。

(高麗小中学校校長) 授業開始後に児童がトイレに行ってしまうなど、授業が開始できないような状況があったが、後期課程の先生が関わるようになってから改善された。後期課程の先生がサポートしやすい環境であったため、継続して授業に関わるようにした結果、出歩く児童も落ち着くようになった。

(委員) 「地域学校協同活動通信の発行」にある放課後日高塾について、再度伺いたい。

(学校教育課副参事) 放課後日高塾は市内各学校の 3・4 年生を対象とした教育委員会の事業であり、高麗小中学校は地域学校協同活動に含めてスタッフを募集しているものである。

(委員) 活動報告の中で図書室が前期課程と後期課程で別々に配置されているとあったが、前期課程と後期課程の子どもたちが同じ場所で交流が図れた方が良いと思う。後期課程の図書室は 5 年生から利用可としているようだが、その区分けも必要か疑問である。4 年生以下の子どもたちに対して、後期課程の子どもたちが読書している姿を見せることも大切だと思う。

(教育長) 学年に相応な図書もあることから、利用する学年の区分けをしている。

(高麗小中学校校長) それぞれの図書室の利用を厳密に制限している訳ではないので、後期課程の子どもが前期課程の図書室に足を運ぶケースもある。例えば、将来保育士を目指している中学生が、小学生で流行っている本について調べるようなことがある。また、小学生が「学校探検」を通じて後期課程用の図書室に行ってみるような取組も行っている。

(委員) 図書室が別々になっている理由は。

(高麗小中学校校長) 国が定めた学校に整備すべき蔵書冊数というものがあり、その基準を満たすために図書室を増やさなければならなかった。小中一貫校の整備に併せて利用しなくなった「パソコン室」を図書室にしたことで、場所が別々になってしまった。

(教育部参事) 参考までに、高根小中学校は大きな部屋の 1 箇所にまとめている。

(委員) 義務教育学校が開始されて半年が経過したが、児童・生徒指導における課題や成果等はあるか。

(高麗小中学校校長) 課題としては、小学校と中学校で行ってきた児童・生徒への指導方法が異なることによる組織の対応方法である。様々な事案に対し速やかに対応できる組織運営が必要と考える。また、成果としては、9 年間の義務教育を見据えた児童・生徒の指導を共通認識できるようになった。「前期（又は後期）課程で起

こっている事案だから」という認識がなくなり、学校全体で発生している事案として対応するようになった。

(委員) 特別支援学級の交流学習について、もう少し詳しく説明いただきたい。

(高麗小中学校校長) 昨年度までは合同でクリスマス会や発表会等を行っていたが、学校が離れていたこともあり、その頻度は学期に1回程度と少なかった。近くに巾着田や高麗川もあるので、そこまで一緒に出かけるなど、交流する機会を増やしたいと考えている。

(委員) 前期課程と後期課程の「知的」と「自閉・情緒」にそれぞれ教員を配置していると思うが、恒常にそれらを一つの学級に集約して一人の教員の授業時数を抑えるようなことをすると法令違反になるので、ご注意いただきたい。

(高麗小中学校校長) 「知的」と「自閉・情緒」については、教室内をパーテーションで区切り、それぞれ個別の指導計画に基づいて教員が指導を行っている。

(教育長) 後期課程の「知的」について、学年によっては前期課程の内容を行う場合もある。その際は前期の「知的」と一緒となり教員も2名で指導を行うことも可能と思われる所以、実態に合わせた教育を行ってもらいたい。

(委員) 1年生から9年生までが一体となるだけでなく、地域の方々も併せて一体となって活動する姿は、非常に素晴らしいと感じる。

「地域学校協同活動通信の発行」について、他の地区ではスタッフの募集にあたり実態が不明瞭な方から応募があったら不安を感じるといった意見があったが、高麗地区ではいかがか。

(高麗公民館長) そのようなご意見等はなかった。

(委員) 疑ってばかりでは前に進まないので、地域の方々と手を組んで取り組んでいかなければならぬ。高麗地区は知らない大人であっても子どもたちがあいさつできる環境であり、地域も子どもたちを温かく見守っているように感じるので、他の地区でも同じような活動が広まればいいなと感じた。

(委員) 水泳授業の民間委託は素晴らしい取組だと感じた。季節や天候に左右されず、水泳専門の講師による授業を受けられるのは、他の学校からすると羨ましく感じる。

また、児童生徒会・委員会活動について、5年生から9年生までが一緒に活動することも素晴らしいと思う。小学校と中学校が分かれていると、それぞれが一緒に活動するのは難しく、中学入学後に初めて生徒会の活動を目にすることとなるが、小学校高学年のうちに中学の生徒会の様子を体感できるということは、非常に有益だと考える。

「地域学校協同活動通信の発行」について、活動本部の中にある広報の担当者が作成しているのか、又は公民館が作成しているのか。

(高麗公民館長) 活動の推進に携わっている代表の方が作成したものである。

(委員) 募集のチラシに「QRコード」を添付するなど、興味のある人が気軽に確認できる方法を取り入れているのも良いと感じた。

### 【教育長報告関連】

(委員) 学校に設置されているAEDについて、リースにより設置しているとのことだが、1台当たりの費用はどの位か。

(教育部長) 担当部署が異なるため、確認し次回会議で報告させていただく。

(委員) オートショック方式とマニュアル方式について伺いたい。

(教育部長) 対象者にパッドを貼り付けた後、電気ショックの必要性を機械が自動で判別し、必要であれば自動で発動するのがオートショック方式、ショックが必要なのでボタンを押すよう音声で案内されるのがマニュアル方式である。担当部署に確認したところ、マニュアル方式のリース期間が満期を迎えた後は、オートショック方式に切り替える予定とのことである。

(委員) 学級閉鎖について、教員が新型コロナウイルスに感染したことから学級閉鎖に繋がる場合もあるので、教育委員会で情報を把握し、必要な対応を行っていただきたい。

前回の会議において、学力検査の結果が全国平均を下回ったことについて報告があつたが、その後分析されていたらその結果を伺いたい。

(学校教育課副参事) 次回会議で報告させていただく。

(委員) 教育長からの報告にあった地区体育祭（スポレク祭）への協力について、「どのように子どもたちを地区に関与させるか」ということか。

(教育長) 子どもたちを対象としたものではなく、教員（学校）としてもっと関わることができるのではないかという意味である。高根地区が行っている学校と地区的合同の運動会を事例に挙げた。

(委員) 地区の規模にもよるが、学校と地域が一体となって運動会を行う取組は良いことだと考える。子どもたちに良い影響を与えられる可能性もある。他の学校でも取り入れられるような指針ができたら良いと考える。

(委員) 高根地区の運動会の日が雨天の場合、延期等の取扱いはどうなるか。

(教育長) 地区で行う種目は学校体育館の中で行うこととし、学校が行う種目は後日に延期となる。

(委員) 昔のように分館対抗で行う体育祭はまだあるのか。

(生涯学習課長) 高萩北地区が分館対抗で行っている。

(教育長) 高麗川地区も分館対抗の種目が一部実施された。

(教育部長) 高根地区は、子どもの数が非常に少なくなったことと併せ、地域の高齢化も進んでいることから、昔のような分館対抗の体育祭が困難となってしまった。

(委員) 県都市教育長協議会報告にあった白岡市の地域クラブ活動推進事業について、統合型地域スポーツクラブとあったが、日高市にはそのようなスポーツクラブはあるか。

(教育長) 複数種目を取り扱うクラブチームはある。

(委員) 県教育局からの情報提供で、生徒指導に関する加配措置について小学校への不登校支援を拡大するとあったが、不登校の児童が増えたということか。

(教育長) 小学校の不登校の特徴として、児童が長期間休んでしまうのではなく、殆どが部分的に休んでその他は出席する事例が多い。まだ登校しているうちに不登校から脱却するための支援を行うものである。小学校には不登校の児童に対応する教員が不足しているため、加配措置を行うことで教員を補おうとするものである。

(委員) 小学校に限った話なのか。

(教育長) 中学校は、空き時間の教員で対応することができる。

(委員) 文部科学省から不登校が増加しているという情報が出されているが、日高市ではいかがか。

(教育部参事) 日高市でも同じような状況である。

(学校教育課長) 小・中学校とも、県平均と同じような割合である。特に新型コロナウイルスの感染拡大前と比較すると、2倍程度の増加となっている。

(委員) 対応策は検討できるか。

(学校教育課長) 「教室に戻る」ということを全てとせず、それぞれの子どもたちに合った居場所を作ることが必要であると国が示している。コミュニケーションが苦手な子どもは、教室以外の場所であれば勉強が進むのかというところが重要な点である。

(委員) 熊の出没報道が多いが、熊への対策等が国から示されているか。市として何か対応しているか。

(教育長) 現時点では特に連絡は届いていない。市としても対応は行っていないが、目撃情報があれば速やかに情報を発信し、注意を促すこととしている。

(委員) 放課後日高塾について、計算ドリルで分からなかつたら答えを見ても良いこととし、その答えを導く過程が理解できた子はいいが、分からない子は答えを丸写しして終了としていた。勉強が分からないことで、不登校に繋がってしまう可能性もある。放課後日高塾は、普段の勉強で分からないところがある児童に対して、丁寧に面倒を見てあげられるような仕組みであってほしいと感じた。

また、保護者から言葉遣いの汚い先生が多いという話を聞いた。子どもたちはその先生の姿を見ているので、注意していただきたいと思う。

髪の毛を染めている小学生が多く、身だしなみについて心配している。「個性だから」と言わるとそれまでかもしれないが、気になる案件である。

(教育長) 補習の在り方については、大きな課題として捉えている。小学校の放課後の使い方についても検討の余地がある。言葉遣いの件も併せて、校長に指示していきたい。子どもの身だしなみについては、各家庭の考え方があつ多様化しており、対応が非常に難しい状況である。

(委員) 部活動の地域展開について、先日アンケートが届いたが具体的な動きはあるか。

(教育長) 現在は、保護者や子どもたちも含めて様々な団体から意見を聴いている状況である。

(委員) 地域展開については、土日の活動に限定するものか。

(教育長) 国としては、土日を基本としているようである。

#### 4) 議案についての質疑及び答弁の要旨

議案第32号 【非公開のため記載せず】

#### 5) その他

##### (1) 次回定例会の日程等について

○11月定例会：11月20日（木曜日）午後1時40分から 委員了承

○12月定例会：12月18日（木曜日）午後1時40分から 委員了承